

江田島市オリーブ振興計画

オリーブの島を
目指して



平成28年11月
江田島市



本市は、「第2次江田島市総合計画」(平成27(2015)年3月策定)において、10年後の将来像として「協働と交流で創り出す『恵み多き島』えたじま」を描きました。その実現のため、「市民満足度の高いまちづくり」&「未来を切り開くまちづくり」の二つを基本戦略に掲げ、「元気な産業・観光を生み出すまち」を目指し、諸施策を推進しています。

さて、農業をとりまく現状は、地形的な条件からの制約も大きく、農業従事者の高齢化や担い手不足、近年の農産物の価格低迷、資材価格の高騰に加え有害鳥獣による被害が問題となっており、農家の生産意欲は低迷状況となっています。また、不在地主が増加し、耕作放棄地は増加の一途をたどっています。

このような中、本市の環境に適し、かつ栽培が比較的容易で、取り組みやすく、将来的にも6次産業化への利用が期待できる品目として「オリーブ」に着目し、地場産業の活性化の一つとして取り組むこととしました。

本計画は、「オリーブ」を活用した活性化対策を体系化し、諸施策を総合的かつ計画的に進めるためのものです。

「オリーブ」の潜在的な可能性を活用し、本計画に基づいて、栽培者、企業などが協働し、オリーブ産地を構築し、オリーブの島を目指して力強く前進してまいりたいと考えています。

平成28年11月

江田島市長 田中達美

目次

| | |
|-------------------|----|
| 1. 計画の趣旨 | 1 |
| 2. オリーブの導入について | 1 |
| 3. 計画の位置づけ | 1 |
| 4. 目標年次 | 2 |
| 5. これまでの取り組み | 2 |
| 1) 実績 | 3 |
| 2) 課題の抽出 | 4 |
| 6. これからの目標 | 5 |
| 1) 基本理念 | 5 |
| 2) 目 標 | 5 |
| 7. 基本となる方向性 | 6 |
| 8. 主な取り組み | 7 |
| ◆ 育てる（植える、実らせる） | 7 |
| ◆ 加工する（搾る、商品化） | 10 |
| ◆ 売る（販売、売り込む） | 12 |
| ◆ 使う（食卓で使う、地域で使う） | 14 |
| 9. 推進体制 | 15 |
| オリーブ公園 植栽等（イメージ図） | 16 |
| 参考資料 | 17 |



1 計画の趣旨

江田島市における農業の現状は、農業従事者の高齢化による担い手不足や農作物の価格低迷、さらに不在地主などによる耕作放棄地が年々増加の一途をたどり、活力が低下しています。このような状況のもと、農業振興策の一つとし「オリーブ」を新たな品目として位置付け、耕作放棄地の解消策として栽培を進めるほか、収穫物などを活用した6次産業化^{*1}を図ることを目的としています。



2 オリーブの導入について

江田島市は、瀬戸内海気候の特徴でもある温暖で降水量の少ない地域にあることから、オリーブ栽培に適した気候を有しています。また、オリーブは比較的作業量の少ない作物であり、栽培管理が容易で経費も少なく、導入リスクが小さいことがあげられます。さらに、近年のイタリア料理のブームや健康志向と相まって、国内での消費量は増加傾向にあります。しかし、国産オリーブのシェアは全体の1%未満となっており、今後、高品質の国産品への注目が高まると思われます。

こうした事によりオリーブの栽培面積は増加すると考えられ、農地の多面的機能^{*2}の維持が期待できるとともに、景観づくりなど市内のイメージアップにつながります。

以上のことから、オリーブの導入を推進します。



3 計画の位置づけ

江田島市では、平成27年3月に策定されました「第2次江田島市総合計画」において、目指すまちづくりの姿を「協働と交流で創り出す『恵み多き島』えたじま」とし、「市民満足度の高いまちづくり」&「未来を切り開くまちづくり」を基本戦略に掲げています。

このことに基づく基本計画の中の部門別計画の柱の一つ「元気な産業・観光を生み出すまち」を実現するため、農林業の振興策の一つとしてオリーブに関する個別の施策を体系化した「オリーブ振興計画」を策定するものです。

※1 6次産業化とは、農産物の生産をベースとした加工、販売サービスの提供を言います。1次産業（農産物の生産）、2次産業（食品加工）、3次産業（流通・販売）を足し算（または掛け算）すると6になることから一体となった産業体系を言います。

※2 多面的機能とは、農産物の供給以外に農業・農村の持つ機能のことを言います。具体的には、国土の保全となる洪水・土砂崩れなどの防止や水源かん養及び伝統的な文化の継承、人々に安らぎを与える景観の維持などが上げられます。



目標年次

本計画は、平成28年度を基準年次として、平成36年度を目標年次として計画を示します。



これまでの取り組み

江田島市は平成22年度から、市民に対しオリーブの苗木の購入助成を開始し、栽培技術の講習会や相談会を定期的を開催するほか、オリーブを身近に感じてもらえるよう、モデルオリーブ園を配置しています。

翌年6月には、オリーブの振興を推進する組織として「江田島市オリーブ振興協議会」を設立し、収穫した実からオリーブオイルを気軽に搾れるよう搾油機の設置、イベントの実施などオリーブ産地の構築に向けた取り組みを行っています。

平成26年度には、大柿町深江地区にオリーブ園の造成が完了し、参入企業によってオリーブの栽培が開始されています。



1) 実績

植栽面積

| 植栽面積 (ha) | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 単年度 | 6.2 | 3.0 | 5.6 | 1.6 | 6.7 | 1.5 |
| 累 計 | 6.2 | 9.2 | 14.8 | 16.4 | 23.1 | 24.6 |
| 内耕作放棄地植栽累積 | 3.5 | 6.5 | 9.1 | 10.7 | 13.8 | 15.3 |

※内耕作放棄地植栽累積は、市民への苗木購入助成配布本数からの算出による

植栽総本数

| 項 目 | 内 訳 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 |
|-------------------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 植栽総本数 (本) | 単年度 | 2,986 | 1,803 | 2,077 | 982 | 3,882 | 931 |
| | 累 計 | 2,986 | 4,789 | 6,866 | 7,848 | 11,730 | 12,661 |
| 内市民への苗木購入助成本数 (本) | 単年度 | 2,142 | 1,803 | 1,614 | 982 | 1,901 | 931 |
| | 累 計 | 2,142 | 3,945 | 5,559 | 6,541 | 8,442 | 9,373 |
| 内参入企業植栽本数 (本) | 単年度 | 844 | | 463 | | 1,981 | |
| | 累 計 | 844 | | 1,307 | | 3,288 | |

参入企業詳細内訳 (参入企業数:3社)

| 大君地区 | 平成22年度 |
|-----------|--------|
| 植栽面積 (ha) | 2.7 |
| 植栽本数 (本) | 844 |

| 深江地区オリーブ園 | 平成24年度 (第1期) | 平成26年度 (第2期) | 累 計 |
|-----------|--------------|--------------|-------|
| 植栽面積 (ha) | 3.0 | 3.6 | 6.6 |
| 植栽本数 (本) | 463 | 1,981 | 2,444 |

果実収穫量、搾油量

| 果実収穫量等 | | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度 | 平成26年度 | 平成27年度 |
|----------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 収穫量 (kg) | 単年度 | - | 50 | 400 | 1,400 | 1,500 | 3,400 |
| 搾油量 (ℓ) | | - | 5 | 40 | 140 | 150 | 290 |

※オリーブ果実の収穫は、おおむね5年生以降

- ・ 普及促進活動 (苗木の購入助成、搾油機の設置、講演会の開催等)
- ・ 栽培技術の習得や栽培技術の向上活動 (栽培講習会、相談会の開催、先進地視察等)
- ・ 広報活動 (モデルオリーブ園の配置、イベントへの参加、市広報及びホームページ等)



植樹祭

2) 課題の抽出

植栽面積及び植栽本数は、年々着実に増加しています。樹齢は、ほぼ成木（8年生）になりつつありますが、収穫量は少量となっています。

この原因の一つとして、栽培管理が徹底していないことから、生育不良となり収穫量に影響しているものと考えられ、搾油量もわずかとなっています。このことは、専門的知識を持つ技術者がいないことが大きく影響しており、今後、栽培技術者などの育成は急務となっています。

また、江田島市に適応した品種の研究や品質向上を図るなど、より濃密な栽培対策が必要と考えます。さらに、生産者に対し栽培意欲を喚起するような集出荷体制の確立も急務となっています。

そのほか、市民における、オリーブの認知度がまだ十分でないため、更なる浸透を図り、オリーブを活かしたまちづくりという雰囲気を醸成していく必要があります。



※成木樹齢は8年生です。標準となる収穫樹齢は、5年生で1本当たり約5.4kg、8年生で約10.8kg収穫できます。（香川県小豆農業改良普及センター資料による）P17参照



これからの目標

1) 基本理念

江田島市の農業は、農業従事者の高齢化、担い手不足さらに不在地主の増加により、耕作放棄地の増加が懸念されています。これら現状を打開するため、耕作放棄地の再生と収穫物を活用した6次産業化を目指し、地域活性化の柱の一つとするため、新たな農業振興施策として取り組みます。

2) 目標

計画の目標年次となっている平成36年度の目標数値を次のとおり示します。

また、オリーブを取り巻く情勢に対して、4年後の平成31年度に、計画の達成状況を検証するとともに、中間見直しを行う予定にしています。

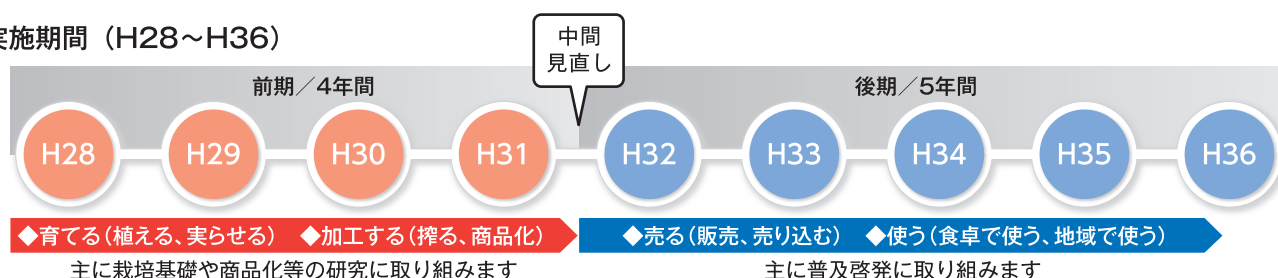
| 項目 | | 平成27年度 現況値 | 平成36年度 目標値 |
|----------------|-------------------|------------|------------|
| 植栽面積 | オリーブ植栽面積 (ha) | 24.6 | 46.9 |
| | 内耕作放棄地への植栽面積 (ha) | 15.3 | 28.8 |
| オリーブ植栽本数 (本) | | 12,661 | 26,000 |
| オリーブ収穫量 (kg) | | 3,400 | 202,760 |
| 加工 | オリーブオイル搾油量 (ℓ) | 290 | 16,220 |
| オリーブ粗生産額 (百万円) | | 3 | 162 |

また、目標年次に向けた目標達成のため、各年次進捗目標を次のとおりとします。

| 項目 | | | 平成27年度 現況値 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 平成32年度 | 平成33年度 | 平成34年度 | 平成35年度 | 平成36年度 |
|----------------|-------------------|--------|---------------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 植栽 | オリーブ植栽面積 (ha) | 単年度目標 | 24.6 | 2.3 | 2.5 | 2.5 | 2.5 | 2.5 | 2.5 | 2.5 | 2.5 | 2.5 |
| | | 累計 | | 26.9 | 29.4 | 31.9 | 34.4 | 36.9 | 39.4 | 41.9 | 44.4 | 46.9 |
| 面積 | 内耕作放棄地への植栽面積 (ha) | 単年度目標 | 15.3 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 | 1.5 |
| | | 累計 | | 16.8 | 18.3 | 19.8 | 21.3 | 22.8 | 24.3 | 25.8 | 27.3 | 28.8 |
| オリーブ植栽本数 (本) | 単年度目標 | 12,661 | 1,400 | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 | 1,500 |
| | 累計 | | 14,000 | 15,500 | 17,000 | 18,500 | 20,000 | 21,500 | 23,000 | 24,500 | 26,000 | |
| オリーブ収穫量 (kg) | | 3,400 | 18,800 | 36,500 | 57,900 | 85,000 | 115,260 | 133,100 | 155,820 | 180,000 | 202,760 | |
| 加工 | オリーブオイル搾油量 (ℓ) | 290 | 1,504 | 2,920 | 4,630 | 6,800 | 9,220 | 10,640 | 12,460 | 14,400 | 16,220 | |
| オリーブ粗生産額 (百万円) | | 3 | 15 | 29 | 46 | 68 | 92 | 106 | 125 | 144 | 162 | |

※植栽本数は6本/aとして算出した。粗生産額800円/kgで算出した。

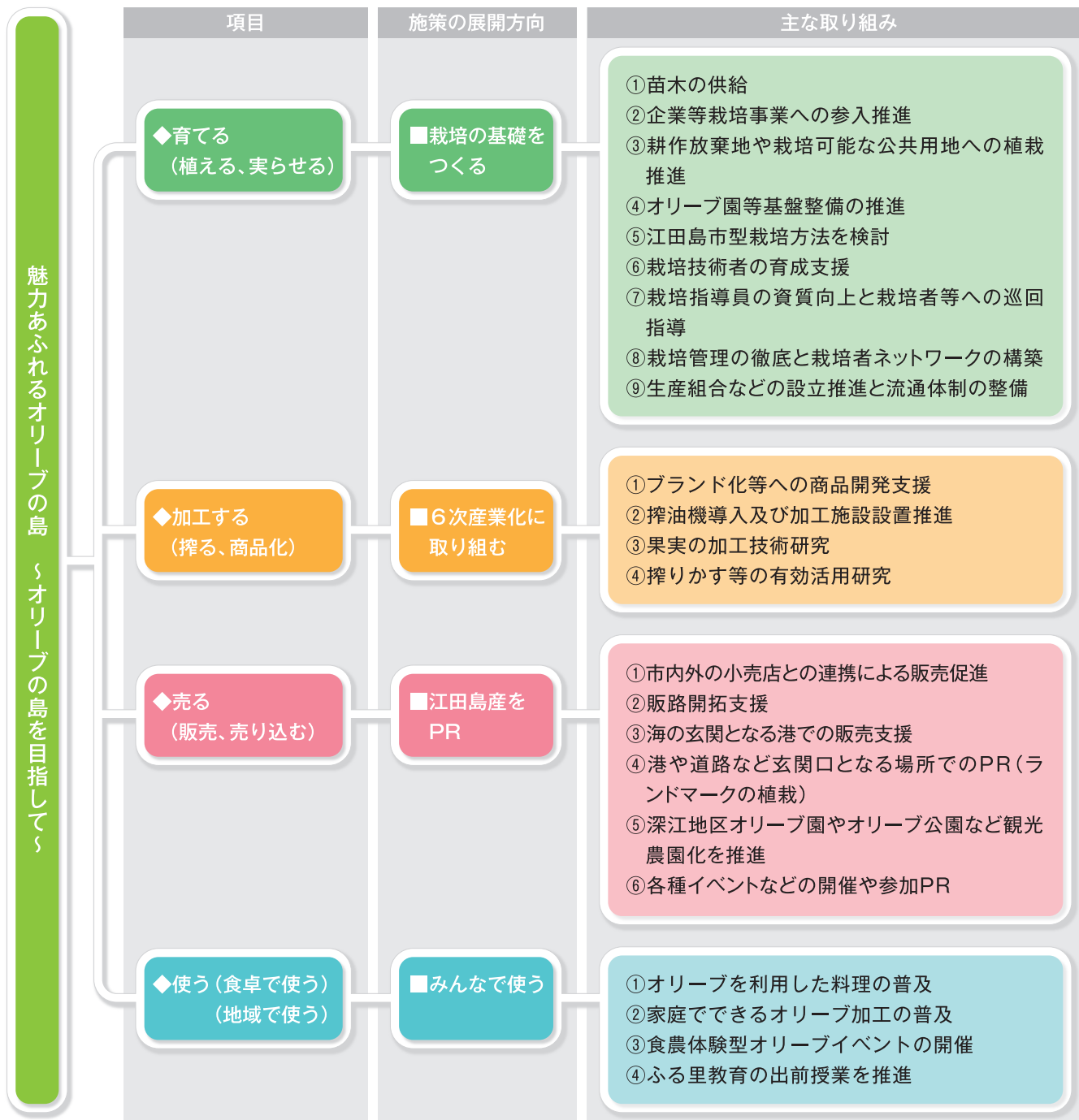
■実施期間 (H28~H36)





基本となる方向性

オリーブの振興を図るため、施策体系を示し方向性を位置づけます。





主な取り組み

◆育てる（植える、実らせる）

■施策の展開方向：栽培の基礎をつくる

オリーブ栽培は、他の果樹に比べ農作業の労働力が比較的少ない傾向にあるとともに、収穫物は6次産業化に大きな期待がかけられています。

このことから、オリーブの植栽による耕作放棄地の解消などに向けた取り組みを推進します。

また、適正な管理を行うことによって、より多くの収穫量を得るため、栽培技術の研究を行い栽培者の技術向上による所得の向上に取り組めます。

そのほか、市民をはじめ訪れる人たちが日常的にオリーブを見ることが出来るオリーブの景観づくりに取り組んでいきます。

| 目標値 | 平成27年度(現況値) | 将来 | 平成36年度 |
|-----------|-------------|----|-----------|
| ○オリーブ植栽本数 | 12,661本 | | 26,000本 |
| ○オリーブの収穫量 | 3,400kg | | 202,760kg |

実施事業

- ①苗木の供給
- ②企業等栽培事業への参入推進
- ③耕作放棄地や栽培可能な公共用地への植栽推進
- ④オリーブ園等基盤整備の推進
- ⑤江田島市型栽培方法を検討
- ⑥栽培技術者^{※3}の育成支援
- ⑦栽培指導員^{※4}の資質向上と栽培者等への巡回指導
- ⑧栽培管理の徹底と栽培者ネットワークの構築
- ⑨生産組合などの設立推進と流通体制の整備



※3 栽培技術者とは、オリーブの栽培・管理・加工等に必要総的な専門技術を持った技術者を示します。

※4 栽培指導員とは、栽培技術者の指導のもと、オリーブの栽培・管理・加工等、栽培農家を中心に相談や指導を直接行う技術者を示します。

① 苗木の供給

現在、耕作している農地内に適地作目であるオリーブの有効性を農業者に積極的にPRし、作目の転換及び耕作放棄地対策として苗木の購入費用の一部を助成します。また、挿し木苗により供給の拡大を図ります。

| 項目 | 平成27年度 | → | 平成36年度 |
|------|--------|---|---------|
| 苗木本数 | 9,373本 | | 22,800本 |



苗木の配布状況

② 企業等栽培事業への参入推進

現在、深江地区オリーブ園において3社が栽培に取り組んでいます。

今後は、さらに企業などの参入を促進します。

また、栽培のほか、加工・販売による6次産業化を推進します。

③ 耕作放棄地や栽培可能な公共用地への植栽推進

耕作放棄地等への植栽は、JAや農業委員会などと連携を図るとともに、栽培奨励活動（展示圃）及び景観形成の一環として植栽可能な公有地等への植栽を推進します。

④ オリーブ園等基盤整備の推進

民間活力を活用するなどし、オリーブ栽培の拠点づくりを推進します。



深江地区オリーブ園

⑤ 江田島市型栽培方法を検討



瀬戸内海特有の気候や風土によって、地域に適した栽培管理方法を検討します。このため、先進地である小豆島からの技術を習得するとともに、江田島市型栽培管理方法の確立に向けた取り組みを進めます。

⑥ 栽培技術者の育成支援

オリーブを栽培する土壌の改良や害虫対策など、総合的な専門技術者について、地域おこし協力隊などの外部人材を活用するなど、技術者の育成を図ります。

⑦ 栽培指導員の資質向上と栽培者等への巡回指導

各種研修や知識経験の蓄積を通じて栽培指導員の資質向上を図り、栽培者に対して植栽から栽培管理方法までを指導する体制を整え、品質のよい果実の収穫を目指します。



苗木植え方講習会

⑧ 栽培管理の徹底と栽培者ネットワークの構築

オリーブの特性などを十分に認識したうえで、適正な栽培管理の実施が必要です。栽培者に対して、定期的に栽培管理方法の情報を発信するとともに、周知徹底を図ります。必要に応じてオリーブ栽培に精通した講師を招へいし、栽培管理、収穫、剪定、病害虫駆除などの栽培研修を推進します。

また、オリーブ栽培者同士が栽培管理、収穫などの技術的な情報交換、交流の場となる栽培者のネットワークの構築を図ります。

⑨ 生産組合などの設立推進と流通体制の整備

品質の良い果実の収穫と短時間による加工が可能となるよう栽培技術情報の共有はもとより、効率的な作業体制や流通体制などを整備し、組織的な活動を推進します。

また、生産者の所得向上を目指し、6次産業化への取り組みを併せて推進します。



◆加工する（搾る、商品化）

■施策の展開方向：6次産業化に取り組む

江田島市では、収穫されたオリーブを市内で加工、販売させる6次産業化に取り組めます。そのため、江田島産オリーブが市内で搾油できる体制を整えます。

また、オリーブは食用オイルだけでなく、果実の加工、化粧品やその他の食品への活用が可能です。また、葉や枝、搾油後の残渣や剪定くずなど、オリーブ全てが付加価値を付けた商品として使用できる可能性を持っています。さまざまな分野において商品開発に向けた取り組みを支援します。

| 目標値 | 平成27年度(現況値) | 将来 | 平成36年度 |
|----------|-------------|----|----------|
| ○オリーブ搾油量 | 290 ℓ | | 16,220 ℓ |

実施事業

- ①ブランド化等への商品開発支援
- ②搾油機導入及び加工施設設置推進
- ③果実の加工技術研究
- ④搾りかす等の有効活用研究



① ブランド化等への商品開発支援

広島県の研究機関や企業が一体となった産学官の連携を図り、柔軟な発想と斬新なアイデアを用いた加工品の開発を推進するとともに、地元企業等によるオリーブ加工品の商品開発などを支援します。

また、オリーブと江田島市内の食材を活用した特産品などの開発を促進します。



江田島産オリーブの塩漬け（新漬）



江田島産オリーブオイル

② 搾油機導入及び加工施設設置推進

搾油機の導入や加工施設の設置は、生産組合などが自主的に6次産業化への取り組みが可能となるよう支援します。さらに、搾油機を設置している栽培者（企業等）との協力体制を整えます。

また、オリーブの品質を確保するためには、オリーブ果実の収穫から搾油までの時間を短縮することが重要であることから、オリーブ栽培者等へ意識啓発を行います。



搾油機

③ 果実の加工技術研究

果実の加工方法などについて、調査研究に取り組みます。また、オリーブの加工を手掛ける加工業者の掘り起しについても併せて行います。



搾油作業

④ 搾りかす等の有効活用研究

搾りかすを有効に活用した農畜水産物のブランド化などの研究を推進します。

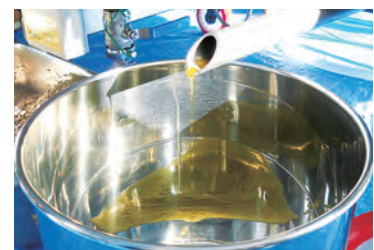
搾油作業の工程



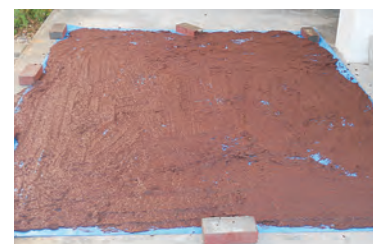
果実投入



粉碎後攪拌



オイル抽出



搾りかす

◆売る（販売、売り込む）

■施策の展開方向：江田島産をPR

日本全国でオリーブ栽培が始まっています。他の地域と差別化を図るため、江田島市の知名度を上げるとともに、「江田島産オリーブ」のブランド化に向けて、普及啓発活動や販路開拓を支援します。

また、市内観光協会等による観光団体と連携を図り、オリーブを通じた観光振興に取り組みます。

| 目標値 | 平成27年度(現況値) | 将来 | 平成36年度 |
|-----------|-------------|----|--------|
| ○オリーブ粗生産額 | 3百万円 | | 162百万円 |

実施事業

- ①市内外の小売店との連携による販売促進
- ②販路開拓支援
- ③海の玄関となる港での販売支援
- ④港や道路など玄関口となる場所でのPR(ランドマークの植栽)
- ⑤深江地区オリーブ園やオリーブ公園など観光農園化を推進
- ⑥各種イベントなどの開催や参加PR

① 市内外の小売店との連携による販売促進

市内外の小売店などに「江田島産オリーブ」を認知・販売促進のためPR事業やマスコミ、ブログなどを含めた情報発信を積極的に行い、消費拡大を図ります。

② 販路開拓支援

関連する情報などを発信し、販路開拓を支援します。そのため農商工連携などによるさまざまな支援策を講じます。

③ 海の玄関となる港での販売支援

江田島市の主要施設となる港などにおいて、オリーブの島として認知度を高めるため、オリーブに関連する商品などの販売を支援します。

④ 港や道路など玄関口となる場所でのPR（ランドマークの植栽）

市民はもとより、訪れる人たちを中心に、市内玄関口となる場所にオリーブの島として認識してもらうため、ランドマークとなる古木の植栽を実施します。

⑤ 深江地区オリーブ園やオリーブ公園など観光農園化を推進

オリーブ栽培を観光事業と位置づけ、オリーブを利用した観光農園や食農体験ができる拠点の整備を推進します。（※P16イメージ図参照）

⑥ 各種イベントなどの開催や参加PR

市内はもとより、近隣都市における各種イベントに参加するとともに、市内を中心としたオリーブを題材としたイベントを開催します。

これにより、オリーブの島としての認知度を高めていきます。



江田島市のオリーブをPR



◆使う（食卓で使う、地域で使う）

■施策の展開方向：みんなで使う

市民の食習慣として定着するよう、身近な食材として普及啓発活動を行うため、食育の推進をはじめ、料理としての活用推進に取り組みます。

また、オリーブの栽培や活用など地域活動の一つとして楽しむことにより、生き生きとした地域づくりにつながるようオリーブ栽培を推進します。

実施事業

- ①オリーブを利用した料理の普及
- ②家庭でできるオリーブ加工の普及
- ③食農体験型オリーブイベントの開催
- ④ふる里教育の出前授業を推進



① オリーブを利用した料理の普及

オリーブオイルなどは、イタリア料理などの普及により、洋食に活用される例が多く見られますが、和食にも合う身近な健康食材として、市民への浸透を図ります。

また、地元食材とのコラボレーションによるメニューを開発するなど、地域活性化グループなどとの連携を図り、オリーブオイルや果実の加工などの普及に努めます。

② 家庭でできるオリーブ加工の普及

家庭でできる果実の加工方法を広め、少量の果実でも無駄のない活用を進めてもらい、家庭でできる料理などの普及に努めます。

③ 食農体験型オリーブイベントの開催

食農体験型イベントの開催を行い、市民や観光客がオリーブにふれあい楽しめるイベントの定着を目指します。

④ ふる里教育の出前授業を推進

市内の小中学校において、ふる里教育の一環として、オリーブの栽培や活用などの出前授業に取り組みます。

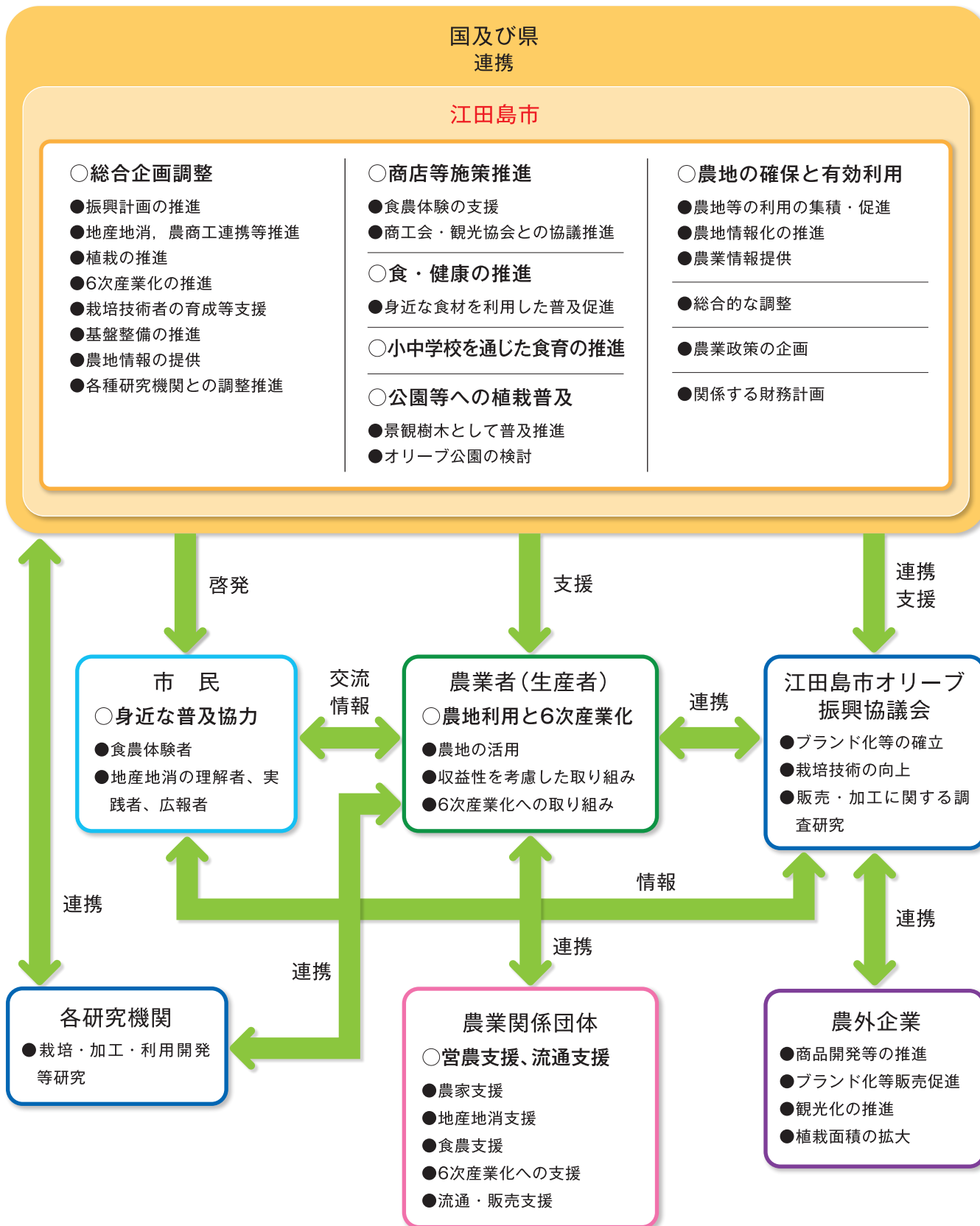
※オリーブオイルの働き

- コレステロールの低下作用：オレイン酸は悪玉コレステロールを減少させ、善玉コレステロールを増加させます。
- 抗酸化作用：オレイン酸は酸化しにくい脂肪(がんや生活習慣病予防など)です。また、ビタミンE、ポリフェノールなど活性酸素を抑制する栄養が豊富です。
- その他、ダイエット効果や整腸作用、美肌効果などあるほか、リウマチ予防、白髪予防などさまざまな働きがあります。



推進体制

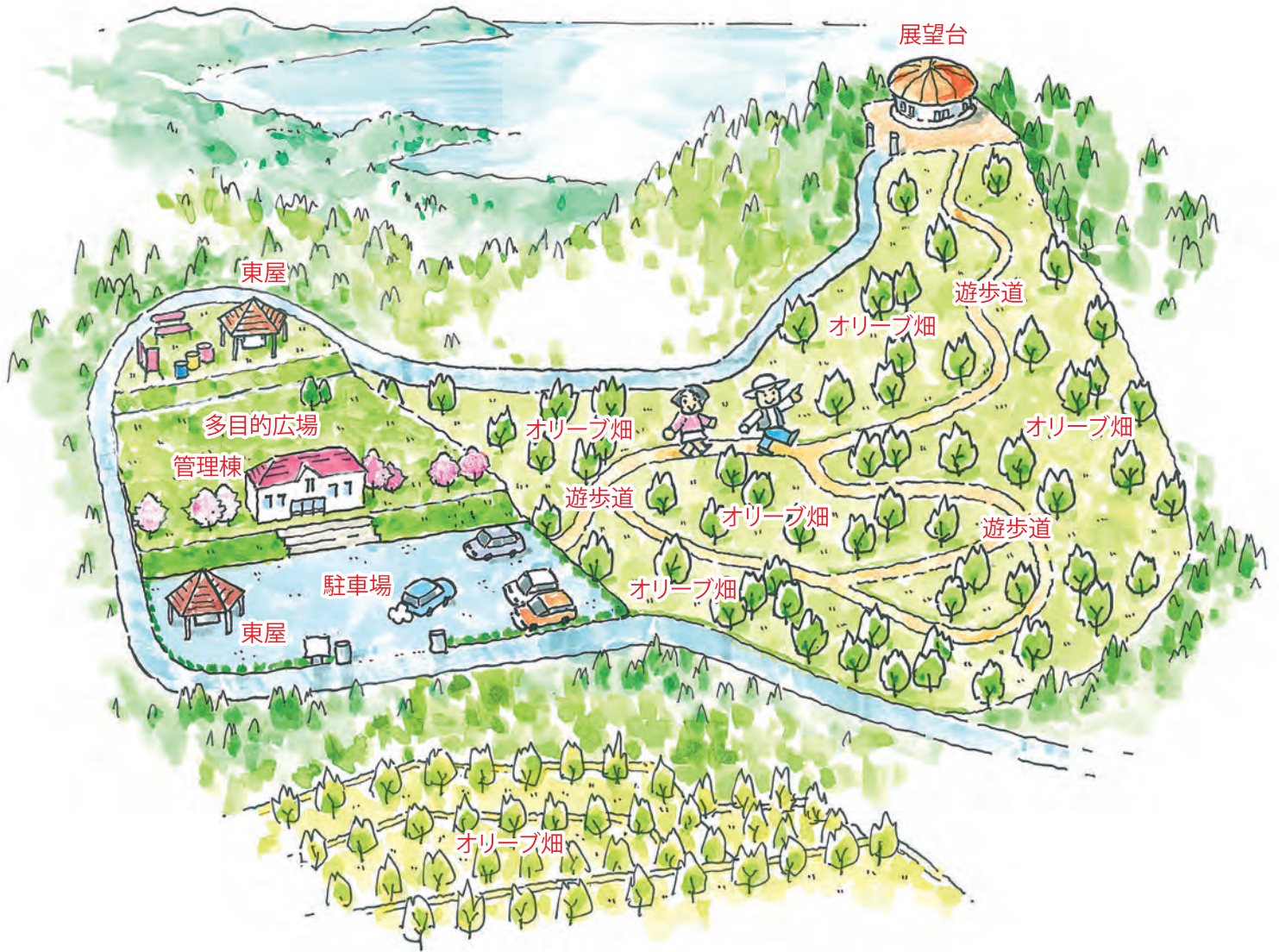
江田島市オリーブ振興計画の推進にあたっては、関係機関・団体との連携強化を図ることが重要となります。





オリーブ公園 植栽等

イメージ図





参考資料

樹木の様子



植栽開始（樹齢3年生）
平均幹周：4.5cm



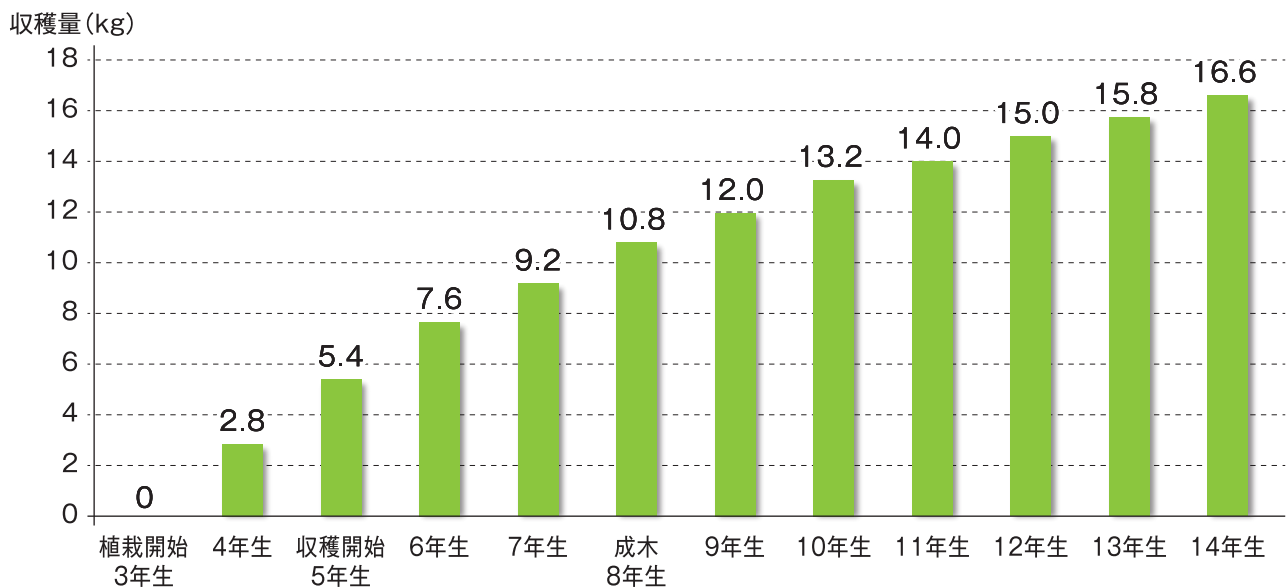
収穫開始（樹齢5年生）
平均幹周：12.5cm



成木（樹齢8年生）
平均幹周：21.5cm


※幹周は、江田島市内の成育木の根元から10cm上を計測

オリーブの樹齢と1本あたりの収穫量



※資料は、香川県小豆農業改良普及センター資料による

オリーブ栽培ごよみ

| 月 旬 | 生育状況 | 作業項目 | 備 考 |
|------------------|----------------|---------------------|--|
| 1 月下旬 | 休眠 | 石灰施用／深耕 | 成木 1 本当たり 2kg 程度の苦土石灰を全面散布し、軽く表土と混和する。 |
| 3 月上旬 | 花芽分化開始 | 春肥施用／整枝・せん定／ 植付け | 低木に仕立て、側枝の更新を図る。新植、補植苗の定植はこの時期に行う。 |
| 4 月上旬 | 萌芽開始 | |  |
| 5 月中旬 | 花芽発育 | | |
| 5 月下旬 | 開花 | | |
| 6 月中旬 6 月下旬 | 幼果発育 旧葉落葉始め | 敷ワラ・敷草 夏肥施用 | |
| 8 月 | 果実肥大期 | 灌水／台風対策 | |
| 9 月中旬 9 月下旬 | | 秋肥施用 塩漬け用果実の収穫 | マンザニコの収穫 |
| 10 月中旬 10 月下旬 | | 塩漬け用果実の収穫 晩秋肥施用 | ミッションの収穫 結実の多かった樹は多めに施用する。 |
| 11 月上旬 | 果実成熟 | 油用果実の収穫 | ミッション熟果の収穫 各品種の完熟果の収穫 |





江田島市オリーブ振興計画

発行日 平成 28 年 11 月
編 集 江田島市産業部農林水産課オリーブ振興室
〒737-2297
広島県江田島市大柿町大原 505 番地
電話 0823-43-1643（直通）
e-mail：nousui@city.etajima.hiroshima.jp
